



夏季手当2.0ヶ月で妥結 6月29日以降準備出来次第支払い決定！ JR東労組結成以来、初めての「再申し入れ」のたたかいの意義を確認し、 組織拡大に向け奮闘しよう！

2021年6月10日、夏季手当に対する回答が会社より示されました。「基準内賃金の2.0ヶ月」という会社回答は私たちに衝撃を与えました。なぜなら、夏季手当は生活費の補てんやローンなどの支払いに充てられ、組合員への調査でも「昨年同様の2.4ヶ月は欲しい」との組合員の生活実感とはあまりにもかけ離れていたからです。

また、21春闘では定期昇給が「係数2」カットされ、現場で働く社員は、退職するまで毎月定昇分がカットされ、多い人では約300万円も減収となります。ワクチン接種が始まり、コロナの終息に向けてオリンピック・パラリンピックが開催される中で、何で現場で汗する組合員だけが、生涯に亘って賃金を減額されなければならないのか。会社は矛盾に一切答えてません。

JR東労組は他の労働組合が早々に妥結し沈黙する中、初めての「再申し入れ」を行い、会社と議論してきました。この本部の姿勢に対し、職場からは「やっと本部が一步前に出た」「再申し入れは驚いた」「会社のつくる嫌な流れに楔を打ち込んでくれた」「数字ではなくて、JR東労組が会社にモノを言えるのかどうかのたたかいだ」と多くの本部を支える声が寄せられました。

しかし、労働組合の力はやはり少数です。 強大な会社と相対するには未加入者のJR東労組への再結集が不可欠です。 JR東日本の未来をみんなで作りに上げるためにみんなで頑張らしましょう！

6月13日、JR東労組元執行委員の専従役員が任期途中でひがし労に加入したことが明らかになりました。このような行為はJR東労組組合員に対する組織破壊攻撃であり、絶対に許すことは出来ません。まして、専従役員の組織破壊は、JR東労組全組合員に対する背信行為であり、組合員への損害賠償も含め、断固としてたたかい抜きましょう！

ひがし労へ加入したJR東労組元中央執行委員の 組織破壊を許さず 組合員のためにたたかおう！